

大規模園芸団地化推進をリードする県内最大のきゅうり産地

山形農業協同組合広域きゅうり部会（山形市）

1 受賞者の概要

平成 28 年度の部会員数は 174 名、きゅうりの販売数量は 1,800t、販売金額は 5.7 億円で、JA 全農山形の取扱量の約半分を占めている。

平成 10 年 3 月に部会を設立し、設立と併せて、県内初の大型きゅうり選果施設が山形市のきゅうり産地の中心に整備された。他の産地と同様、高齢化に伴い部会員は減少しているものの、部会員 1 人当たりの出荷数量を維持し、部会員 1 人当たりの販売金額が右肩上がりとなっている。

部会では、若手による圃場巡回や研修会、栄養診断等を実施し、仲間づくりを進め、若い生産者が定着できるように取り組んでいる。

2 特色ある活動

（1）作型の組み合わせによる長期出荷体系の確立

ハウス栽培、露地栽培の作型を組み合わせ、県内他産地にない長期出荷体系を構築している。3 月中旬から 11 月下旬まで長期出荷することで、全国リレー出荷の中で関東産から東北産への切り替えにおける芽出し東北産地としての役割を担い、市場から信頼される産地となっている。

（2）安定生産に向けた取り組み

安定生産を図るため、ハウス栽培では、促成栽培と抑制栽培の間に太陽熱消毒等の土壌消毒を組み込み、土壌病害の対策に取り組んでいる。また、生理障害の対策として、土壌分析に基づく施肥、土づくりに取り組んでいる。

（3）若手生産者を中心とした栄養診断に基づく肥培管理

圃場やハウスなど現場で迅速に測定できるリアルタイム栄養診断に若手生産者が取り組み、結果を肥培管理、草勢管理に役立てている。

3 今後の発展方向

産地を担うやる気のある若い農業後継者を確保し、育てていかなければという強い思いから、部会と山形農協がタイアップしたハウス団地構想がスタートしている。今年度 1 ha のハウス団地をきゅうり選果場の近隣に整備し、担い手にハウスを貸し出し、平成 30 年度から栽培が始まる予定である。



大型きゅうり選果施設